

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家

体験活動を通じて「生きる力」を身につけよう 富士のさと わくわくキャンプ ①こども編

平成 29 年 9 月 9 日 (土) ~ 9 月 10 日 (日) 1泊2日

○目的

体験活動を通じて、子供たちの自主性・協調性・基本的
生活習慣を育み「生きる力」を身につける。

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を子供
対象のキャンプで実践しスキルアップを図る。



【運営に関わったスタッフ】

○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログ
ラムを企画・立案し当日の運営をする。



【セッションごとの話し合い】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 30 名の企画メンバーを 5 つのセクションに
分け、全体進行班を中心に各セクションごとにお互いにメール
等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員とセクション別ミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成
- ・実地踏査の実施 等



【試作品づくり】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、実習生を含む総勢 30 名（ボランティア 27 名、社会教育実習生等 3 名）が担っ
た。スタッフは前日から宿泊し準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回
の参加者は近隣 4 市町の小学 4~6 年生 32 名であった。

1 日目 [9 月 9 日 (土)]



《はじめの会》

「はじめまして！」ごあいさつ



《アイスブレイク》

「こんにちは！」名前覚えてね



《プログラム①》

アクティブウォークラリー



《アウトドアクッキング》
ナンなんだこのカレー！！
2日目 [9月10日(日)]



《楽しい食事タイム》
スタッフも班の子と一緒に



《ナイトプログラム》
感動のキャンプファイヤー



《朝のつどい》
元気よくラジオ体操



《プログラム②》
焼板 思い出クラフトづくり



《おわりの会》
代表あいさつ「楽しかった～」

《参加した子供の声》

- ・わくわくさせてくれてありがとう。おかげで、楽しい思い出づくりができました。
- ・これからは、困った時はできるだけ自分で解決します
- ・お兄さんやお姉さんがやさしくしてくれた、笑顔があふれるキャンプでした。
- ・このすてきなキャンプを考えてくれてありがとうございました。
- ・次のキャンプもぜひ参加します。
(その他、感謝の言葉がたくさん！)



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・子供の笑顔、スタッフの笑顔がたくさん見られて、心に残るキャンプでした。
- ・何も無い状態から企画を作り上げていくことは難しかったが、全体進行を中心に各セッションが連携を取り合い、協力していく過程がとても楽しく、自分自身も成長することができた。
- ・今後も事業に参加して、経験を積み重ね、成長していきたいと思います。

《成果と課題》

ボランティアが主体的に考え、アイデアを生み出し、子供たちと積極的に関わり活動したことで、笑顔があふれるキャンプとなった。また、子供たちにとっても「生きる力」について考えるきっかけとなった。今後、ボランティアには、さらなる自主企画事業に参加できるような活躍の場の提供など、成長につながる環境を整えていきたい。そのためにも、限られた時間の中で、実地踏査や情報共有等の事前確認がとれる方法を工夫するなど検討を重ねていく必要がある。